

時空を超える歴史物語

「NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」が始まりました。今回は鎌倉幕府執権の北条義時が主人公です。義時の知名度が低くて心配したのですが、戯作者三谷幸喜さんは脇役の源頼朝を人間臭く描いてドラマを面白くしています。

ところで、私たちは鎌倉幕府の創設を「イイクニ作ろう鎌倉幕府」1192年と覚えましたがね。しかし最近は全国に守護や地頭を置いた1185年をもって鎌倉幕府開設とする説が有力です。更に教科書に載っていた源頼朝の肖像画は別人だと言っています。

近年の歴史研究の成果によって、定説が覆されたのには戸惑いを覚えますが、我々にとって鎌倉幕府の創設が1192年だろうと1185年だろうと、正直なところどちらでもよいのです。平安末期からの源平の時代について、

我々が興味を持ち心を動かされるのは、平家物語や源平盛衰記などの物語の世界です。もちろん物語はフィクションであり歴史ではありません。しかし史実と異なるからと言って物語を軽視する必要はありません。千年近くも語り続けられ読み続けられたという事実は限りなく重いのです。

「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらわす。」この名文句で始まる平家物語は、末法の世に漂う無常感にあふれています。「おこれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。」と続き、当時の人々の胸を打った何もかが、時空を超えて現代に生きる我々の魂を揺さぶるのです。

日本人のメンタリテイの連鎖がここにあります。